|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ROOT2019 将来に向けたビジョン |  |

日付：2021.02.28

受講生番号： RT19-33

氏名：　　中田大翔

　今回、実践ステージでの活動を通して、科学的な「研究」というのがどういうものなのかということを学ぶことができました。

　2年前に、自分の将来の選択肢の一つとして、科学の世界や仕事がどのようなものなのかを体験してみようと思ってROOTに申し込み、一年間様々な先生の講義を受けてきました。当時、知識も少なく勝手が全くわからなかった中で、自分には研究をすることは厳しいのではないかと思うことが多々ありました。しかし、幸運なことに実践ステージに選抜され、実際に研究をしてみると、基礎ステージではわからなかった研究の楽しさを多々感じることができました。

　ROOTプログラムでの研究活動やその発表を通して、研究をする機会だけでなく、さまざまの技能を身につけることができたと感じています。例えば、英語の技能です。去年の春の英語の集中講義や、研究発表のスライド作成などを通じて、基礎ステージの時点では大きな苦手意識があった英語に対して、いまだに知識は完璧ではありませんが、嫌悪感を抱くことなく、むしろ楽しいと思って英語を使うことができるようになりました。

　また、ROOTプログラムの理念である根源を問うということの重要性は、基礎ステージ生の時に感じた以上に実感することができました。昨今のコロナウイルス感染症の流行においても、さまざまな情報が錯綜し、時には人々が謝った情報や、悪意のある情報の騙される事態が起こった中で、自分自身はその情報を批判的に見る、これはどういう意味なのか、などしっかりと情報が正しいのかを判断する力が必要になっています。そんな状態の中でも、根源を問う、という能力は大きな役に立つものだと感じています。

　今後の展望は、まずは受験生になるということで、勉強に本腰を入れていこうと思っています。その後、大学では、今回行った研究の内容に近い、具体的に言えば情報系を専攻したいと思っています。また、状況が許すならば、国際的に活躍できるようになるために海外留学することも考えています。以前は、技術者になることを考えて進路志望を考えていましたが、ROOTでの活動を通じて、研究者としての進路も考えるようになりました。しかし、研究者という職業の過酷さなどを考えると、迷うところがあり、まだ大学卒業後に博士号を取るのかどうかなどはまだ検討中です。とりあえず大学では、自分のやりたい分野をある程度絞った上で、自分に適した進路を検討していきたいと思っています。

現在の研究は、一旦は終了することにしていますが、大学に進学し、研究を引き継ぐことができれば、今回のプログラムを今度は別の分野、例えば混雑の回避という特徴を用いて、救急搬送システムの効率的運用等を行うための新たなプログラムに改造することなどができればいいかなと考えています。

　このプログラムで経験したことは、高校の内部だけでは決して経験できなかったことばかりでした。このような素晴らしい機会を与えてくださったことに感謝申し上げます。また、自分自身も、この経験を最大限活かすことができるように、これからも努力していきたいと思います。